日本歌唱芸術協会

本部：沖縄

創立１周年記念演奏会

2023 年 8 月 12 日　パレット市民劇場

ご挨拶（理念・概要・原点）＆ 曲目解説・歌詞大訳・対訳

ご 挨 拶

ようこそ、本演奏会にお出で下さいました！　ありがとうございます。

日本歌唱芸術歌唱協会（本部：沖縄）という全国とつながる意思と展望をもつ、歌唱芸術振興の一つの種子が沖縄に植えられてから１年となりました。この種子が多くの人に歌唱芸術の果実を与える大樹となることを願い、年間に、次の活動を行っております。

① 歌唱の基礎知識を学習する「例会」、②講師の個人レッスンに引き続いての「研修演奏会」（本年は作曲家・木下牧子氏）、③研鑽の成果をコンサートホールで発表する「歌の集い」、④歌唱芸術振興に貢献する演奏を目指す「定期演奏会・オペラ公演」、⑤「会報・研究誌の発行」

歌の楽器である身体は 100 人 100 とおりですが、歌うメカニズムは共通です。その共通部分である基礎知識（＋トレーニング法）を得て、各自の楽器としての身体を調整していくことをお薦めしています。研鑽⇒演奏⇒反省⇒研鑽⇒演奏⇒反省～の繰り返しは、歌への情熱によって、上方向へのスパイラルが生まれ、その人にとって最良の歌のパフォーマンスに導いていき、喉は健康に保たれ、不調になることを減らすことができる可能性があります。

是非、ご一緒に研鑽と演奏を楽しみませんか？ご関心のある方は、日本歌唱芸術協会の公式ホームページを閲覧くださいませ。心よりお待ちしております。

本日の演奏会を楽しんでいただけましたら幸いです。

日本歌唱芸術協会公式ホームページ
https://www.jsaa-okinawa.org/

日本歌唱芸術協会理事一同

《 理 念 》

歌唱芸術において、専門家と愛好家が共に集い、平和を運んでくる音楽の力を信じて、共に研修することにより文化振興に寄与し、人類、社会の平和と発展に貢献すること。

《 概 要 》

声楽家　歌唱愛好家　琉球芸能・邦楽の歌い手　ミュージカル・アーティスト　歌唱芸術演奏共演者(ピアニスト,器楽奏者など)　作曲家　歌唱芸術関連者(舞台スタッフ 企画制作者)　音声生理学者 医師　声楽発声トレーニングに関心を持つ者　歌唱芸術演奏に研究可能性を見る多様な分野の研究者と共に、歌唱芸術の研究、および、演奏実践を展開する。同時に、歌唱芸術演奏家などの研究論文作成、学生・若手演奏実践を支援する。

《 原 点 》

『日本歌唱芸術協会(本部:沖縄)』は、会員の一人ひとりが、持てる能力をフルに発揮し、歌唱芸術演奏を通して内外に信頼関係を築いていく素晴らしい協会でありたいと考えて活動します。今後、ご縁のある人・地域と繋がり、その地域に合った活動で楽しく有意義な歌の輪を国内外に広げて参ります。人の心に直接訴えかける演奏の力が向上すると共に、人と人、地域と地域、研究と研究とが、歌で無限に良く繋がっていくこと、演奏家及び演奏家を目指す若い人材が育つ場であること、ここに『日本歌唱芸術協会(本部:沖縄)』の原点があります。

曲目解説と歌詞の大訳・対訳

○ オペラ[タンホイザー]よりエリザベートのアリア
“ Dich, teure Halle , grüss' ich wieder ” 愛する殿堂よ,お久しぶり

作曲はリヒャルト・ワーグナーWilhelm Richard Wagner(1813-1883,ドイツ)。台本はワーグナー自身による。題材は、中世のタンホイザー伝説とヴァルトブルクの歌合戦伝説である。騎士タンホイザーはエリザベートとの純粋・精神的な愛がありながら、ヴェーヌスとの官能・肉欲に魅せられて悪に引きずり込まれるが、エリザベートの自己犠牲によってタンホイザーの魂は救済される。アリア“歌の殿堂”は、愛するタンホイザーが帰ってきて、この殿堂で歌うことのエリザベートの喜びが歌われる。歌詞対訳『愛する殿堂よ、お久しぶり。この愛する場所に再び来れてうれしい！ここに、あの方の歌がよみがえり、私を暗い夢からめざめさせてくれるのだ。あの方が行ってしまってからは、なんと味気ない場所だったことだろうか！私の心に平安は無く、殿堂から喜びは消え失せた･･･。しかし今、胸が高鳴っている。殿堂は、なんと清らかに誇らかに見えることだろうか。私とこの殿堂に、新らしい生命を吹き込む人が遠くへ行ってしまうことはもう決してないでしょう。ようこそ愛する殿堂よ！ようこそ私のもとに！』
（豊田 喜代美）

○ドニゼッティ作曲オペラ[ドン・パスクワーレ]より
・Ⅰ幕二重唱ノリーナとマラテスタ ” Pronta io son ”
準備はできているわ

舞台は19世紀初頭のイタリア・ローマ。パスクワーレ老人は自身の財産の後継者を甥であるエルネストに望んでいるが、エルネストは未亡人ノリーナと結婚すると言い張る為、家から彼を追い出してしまう。この苦境を、ノリーナはエルネストの友人である医者のマラテスタに相談した。この “Pronta io son”は、エルネストを救うために計画を練るマラテスタとノリーナの二重唱である。マラテスタは、パスクワーレ老人と偽の結婚をして、直後に恐妻となり彼を困らせる計画を企てる。素晴らしい作戦だと計画に乗ったノリーナは、パスクワーレを騙すため、純真無垢な女性の素振りを練習し、あの老人を騙して振り回しましょうと歌う。このマラテスタとノリーナの計略にひっかかったパスクワーレ老人は自身で後継者を作ろうと奮起し、医者のマラテスタの妹との結婚を宣言する。しかしその妹は、実はパスクワーレ老人が惚れ込んだ純情な田舎娘ではなく、妹のふりをしたエルネストの恋人ノリーナだったのである。（金城 理沙子）

・Ⅲ幕二重唱 ノリーナとドン・パスクワーレ
” Signorina in tanta fretta ” そんなに急いで

ノリーナはドン・パスクワーレと偽の結婚を果たす。実はこれは、マラテスタによる、ドン・パスクワーレに「結婚なんてこりごりだ」と思わせるための罠だったのだ。最終的にはドン・パスクワーレの甥っ子エルネストとノリーナの結婚を認めさせる計画だ。ドン・パスクワーレとの結婚式を終えるやいなや、ノリーナは猫かぶりをやめ、派手で高慢な女に。金遣いが荒く、遊びほうけるノリーナをとめられないドン・パスクワーレ。妻のあまりの豹変ぶりにドン・パスクワーレは茫然自失となる。この二重唱は、ノリーナが劇場に行くためのゴージャスなドレスに着替えて現れる場面。「娯楽のために劇場に行ってくるわ」とノリーナ。ついに怒りが爆発したドン・パスクワーレ。「この家から絶対出さないぞ！」と叫ぶ夫に対し、ノリーナは「口で言っても分からないならこれをどうぞ」と彼の頬に平手打ちをかます。これまで長い人生、誰かに手を挙げられたことなどなかったドン・パスクワーレは涙目になって「ああ、ドン・パスクワーレ、お前はもう終わりだ…」と嘆く。ノリーナもさすがに可哀想になるが、これも計画のためだと演技を続ける。
（金城 真希）

・Ⅲ幕二重唱 ドン・パスクワーレとマラテスタ
" Cheti , Cheti " 静かにしなさい

ノリーナとマラテスタの計画は順調に運び、ノリーナに嫌気がさしたドン・パスクワーレはマラテスタに相談する。歌詞対訳『パスクワーレ「既に半年分のお金が使われてしまった。平手打ちもするんだ。もっと深刻なことがある。この手紙を見てごらん。ノリーナは浮気もしている。」マラテスタ「そんなことは信じられない。浮気の現場をとらえて、二度としないようにさせよう。」パスクワーレ「それでは甘い。もうあの女は嫌だ、コリゴリだ。」マラテスタ「それならば浮気現場を押さえて、ノリーナを追い出すか？」パスクワーレ「そうだ、そうしよう！」そしてマラテスタとパスクワーレは浮気の現場へと向かう。このオペラの結末は、マラテスタとノリーナがドン・パスクワーレを騙したことを謝り、ドン・パスクワーレもノリーナとエルネストの結婚を許し、めでたしめでたしのハッピーエンドとなる。（西條 智之）

○ スペインの歌曲 作曲家 Joaquín Rodrigo
ホアキン・ロドリーゴ（1901-1999）

ギターとオーケストラのための≪アランフエス協奏曲（1939）≫で高名な、盲目の作曲家ロドリーゴは、その生没年が示すように 20 世紀スペインを生き抜いた作曲家であった。彼自身偉大な作曲家であったが、その妻ビクトリア・カミーは、ユダヤの血筋を引く才女で、多くの言語に通じ、詩作もし、彼が作曲家として国際的に活躍するようになると、有能な通訳者としても働き、彼の書く点字譜と出版社がこれをもとに作成した通常楽譜との照合や校正までも行なった。まさにロドリーゴにとっては手足はもとより目とも口ともなって支え続けた、かけがえのない伴侶であった。彼は、歌曲における作品も数多く、そのどれもが一聴してロドリーゴの作であるという独特な響きに満ちている。（服部 洋一）

・組曲《4 つの愛のマドリガル Cuatro madrigales amatorios（1947）》より第 1 曲と第 4 曲

ルネサンス時代から歌い継がれたメロディーと詩にハーモニゼションした歌曲作品集。4つの愛の形を鏤めている。

・第 1 曲¿Con qué la lavaré? “何を使って洗いましょう”

歌詞対訳『私のこの顔を、何を使って洗いましょう？何を使って洗いましょう？なんてみじめな私の生活なの、お嫁に行った人たちはレモン水で顔を洗っているのに、私だけがひとりきり憂いと悲しみで洗います』

・第 4 曲 De los álamos vengo madre “お母さん,ポプラの林に行ってきた”

思春期の若者の初恋を描いたもの。歌詞対訳『お母さん、僕はポプラの樹々が風に揺れるのを見てきたよ。セヴィリアのポプラの樹の葉がそよぐのを見てきた。そして僕の可愛い女友達にも会ってきた』（服部洋一＋豊田喜代美）

〇モーツァルト作曲オペラ[コジ・ファン・トゥッテ]より

・序曲

オペラの大意：「コジ・ファン・トゥッテ」とは、イタリア語で「女はみんなこうしたもの」という意味である。若い軍人 2 人の彼女が浮気をするかしないかで、賭けをする。「大切な人がいる」と拒んだ女性たちであったが、最終的には浮気をする。げ軍人２人は憤慨するが「二度と浮気はしない」と誓って仲直りをするというのが簡単なあらすじ。イタリア語でオペラを書きたいというモーツァルトの願いが叶った作品だが、不謹慎な内容であると、イタリアでは人気が低く、ミラノ・スカラ座では長い間上演されなかった。現在ではモーツァルトにしか作り得なかった稀有の名作として高い評価を得ている。不道徳に思える瞬間に美しすぎる音楽を書いたモーツァルト。「女はこうしたもの」に女性軽視の見方もあるが、モーツァルトにとっては人間らしい女性たちへ賛美、「女性賛歌」だったのかもしれない。

（仲村渠 悠子）

・Ⅰ幕三重唱 ”La mia Dorabella” わがドラベラに限って

舞台は18世紀末のナポリ。明け方の飲み屋にて、士官であるフェランドとグリエルは「自分たちの恋人の操はかたい！」と息を巻いている。その理由は、哲学者ドン・アルフォンソが「女性は心変わりをするものだ。」と言い放ったからである。怒る二人に対して、アルフォンソは「恋人たちの貞節が不変であるか賭けをしよう。」とけしかける。二人はまんまと賭けに乗り「勝って愛の神へ祝杯をあげよう！」と高らかに歌う。物語の起点となる三重唱である。

（仲本 博貴）

・Ⅱ幕デスピーナ独唱 ” Una Donna a q uindici anni ” 女も 15 になれば

このアリアは老哲学者とともに、この恋人交換のドラマで狂言回しの役をつとめる女中デスピーナの歌である。この役は軽い声、軽い身のこなしが必要で、”女も十五になったら、世の中のこと、恋の駆け引きを、色々知らなくては”とはじめ、中間部では”女の魅力で殿方を惹きつけねば”とあおりたてる。姉妹は、顔を見合わせてあきれるものの、デスピーナの思惑どおりに、しだいに浮気心が持ち上がってくる。歌詞対訳『女も十五になれば流行が何だか知らなければなりません。どこに危険があるかも何が良いことで何が悪いことかもお愛想笑いに空涙適当な言い逃れの言い方そういった男をひっかけるコツだって知ってなければいけません。同時に百人の男の言うことを聞き専任の男と目配せで気持ちを伝え美男にも醜男にもみんなに気を持たせどぎまぎしないで本当の気持ちを偽ったり赤くならずにごまかしを言ったりするのです。高い玉座から女王様がするように「したい放題するの」と言って従わせるのですわ。私の教えたこと気に入ったらしいわ。上出来よ、デスピーナ。お役に立つわ。（訳・永竹由幸）』

（根神 夢野）

・Ⅰ幕六重唱 "Alla bella Despinetta" 美しいデスピーナに

姉妹の貞操有りとするフェランドとグリエルモに対して、貞操無しとするアルフォンソ。その賭けに勝つためのアルフォンソの策略がいよいよ始まる。フェランドとグリエルモは

急に戦争に行くことになったとフィオルデリージとドラベッラに伝え、船に乗って出発したことにしたのである。恋人たちがいなくなり、悲しむフィオルデリージとドラベッラ。その様子を見て、フェランドとグリエルモはご満悦である。アルフォンソは、女中で賢いデスピーナを味方につけるため買収し協力させる。フェランドとグリエルモはアルフォンソの指示で、ひげを付けたり帽子をかぶったりして、アルバニア人に変装し、姉妹の家にやって来る。アルフォンソに紹介されて変装した二人を見たデスピーナは、フェランドとグリエルモとは全く気が付かず笑いだすので、アルフォンソは「上手くいく」と歌う。変装した二人は、騒ぎに駆けつけたフィオルデリージとドラベッラを口説き始めるが、実は、相手は自分の恋人ではない方の姉妹を口説くのである。（友利 あつ子）

・Ⅰ幕フィナーレ "Ah, che tutta in un momento" あぁ，どうしてこんなに一度に

1 度目の口説きに失敗したフェランドとグリエルモは再度挑戦する。「僕たちを受け入れてくれないなら、毒を飲みます」と言い、毒（本物では無い）を飲みほす。フィオルデリージとドラベッラは二人を気の毒に思い始める。そこに医者に扮したデスピーナが登場し、不思議な石のパワーで二人から毒を抜くのである。息を吹き返したフェランドとグリエルモは「あなた方は女神だ！」と再び口説き始め口づけをもとめる。姉妹は「私たちの貞操をバカにしているのか」と怒りだす。その様子を見たアルフォンソとデスピーナは「この怒りが、いずれ恋心に変わる」と楽しそうに眺めるのである。三組の心情が面白くおかしく絡み合い 1 幕は終わる。（友利 あつ子）

○ 日本の歌

・三善 晃 作曲 《 四つの秋の歌 》より

3.「林の中」 4.「枯れ葉」高田 敏子:詩

歌曲集《四つの秋の歌》は、他に 1.駅、2.忘れられた海、がある。夏の終わりから、秋の訪れ、そして冬の始まりまでの季節の移り変わりについて、主に「少女」の見る世界観を通して表現されている。作詞の高田敏子は、「主婦詩人」「お母さん詩人」などの異名を持ち、作品の節々に子どもと大人の対比が感じられる。《四つの秋の歌》については、季節や枯れ葉に命を吹き込むような作風に、想像力を掻き立てられる。以下、三善晃歌曲集より《四つの秋の歌》についての三善晃の記述を引用する。『1963 年、池田弘子さんの委嘱に依り作曲、同年10月のリサイタルで初演された。高田敏子さんの詩と池田弘子さんの心に誘導されて、簡明なカダンスを織りつづるピアノと、歌いやすい旋律をこころみた。それだけに、歌の哀感と優しさとピアニズムの色彩的なニュアンスに、心のすべてがかけられよう。（1971年三善晃）※カダンスとは、リズムや抑揚のことと解釈した。（喜屋武いつみ）

・山田 耕筰 作曲「赤とんぼ」三木 露風 詩
「南天の花」永井 隆 詩

・古関 裕而 作「長崎の鐘」サトウ ハチロー 詩
「イヨマンテの夜」菊田 一男 詩

山田と古関の関係を述べるには紙面が足りないが、3年前の NHK 朝ドラ「エール」における登場人物は、この二人がモデルになっていて大変興味深い。片や、我が国クラシック界の大御所とも言える大作曲家の山田耕筰、一方の古関裕而は一般的には歌謡曲の作り手として知られている。しかし、そんな古関も最初はクラシックの作曲家を目指し、山田から指南を受けていた。歌謡曲を作曲する他にも、東京五輪の入場行進曲など数々のスポーツマーチで、“和製スーザ”とも言われるような作曲活動を行っていた。その古関が作曲した作品の一つに藤山一郎が歌った「長崎の鐘」がある。そして、この曲のモチーフとなった随筆の作者である永井隆の書いた詩に、山田耕筰が作曲した歌曲が「南天の花」である。庭に咲く南天の花を眺め、被爆し亡くなった妻を偲ぶ、哀しくも美しい歌曲である。本日の演奏では、誰もが知っている山田の「赤とんぼ」に始まり、同じ山田の知られざる名曲とも言えるこの「南天の花」、そして古関の代表作である「長崎の鐘」（この曲の最後の部分は、新しき朝の光の･･･という永井隆の短歌に、藤山一郎がメロディーを付けたものである）と続く。最後は古関作品から、アイヌの熊祭りを歌った「イヨマンテの夜」を演奏する。クラシックの作曲家を目指した古関ならではの、歌謡曲の枠を超えたスケールの大きな作品となっている。古関と同郷（福島）で、やはり最初はオペラ歌手を目指して音楽学校で学んだ伊藤久雄が歌ってヒットした楽曲である。（五郎部俊朗）

・故郷の四季/文部省唱歌集 源田 俊一郎 編曲

日本の四季を歌う唱歌が、源田俊一郎氏の編曲によって美しい音楽の絵巻物のような歌集になっている。 今現在、多くの機会に演奏され、愛唱されている歌集である。
（豊田 喜代美）

出演者プロフィール（出演順）

■ 武田 光史 Koji Takeda ピアニスト

神奈川県横浜市生。父は横浜市、母は南大東村出身。逗子開成高校卒業。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科演奏芸術専攻ピアノ専修修了。第 22 回沖縄ピアノコンクールグランプリ受賞。ピアノを鈴木トヨミ,平塚久子,鹿目美智子,日比谷友妃子,渡辺健二,平井丈二郎、岩崎セツ子の各氏に師事。現在 Atlier みるく首里（首里テラス）,はなみずき音楽院,沖縄県立開邦高校非常勤講師。2010 年より毎年ピアノリサイタルを開催。2011 年度（第 46 回）沖縄タイムス芸術選賞奨励賞受賞。2020・2021 年度（第 55 回・56 回）沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞。日本歌唱芸術協会理事。
[予定]武田光史ピアノリサイタル 11 月 23 日（火）。シュガーホール。後援：日本歌唱芸術協会
問合せ:珈琲三昧ぽえむ八重瀬店 098-998-00

■ 仲村渠 悠子 Yuko Nakandakari ピアニスト

沖縄県出身。桐朋学園女子高等学校音楽科、同大学音楽学部、同研究科を最高点にて修了。ドイツデトモルト音楽大学首席卒業、ドイツ国家演奏家資格取得。これまでに上地昇, 大坪サイ, 日比谷友妃子, 高良芳枝, ミハル・ボスクレセンスキウゴルスキー, アンドラーシュ・シフらに師事。2003 年にドイツに留学、卒業後は、デトモルト音楽大学のコレペティトアとして後進の指導にあたる他、ドイツ国内、ギリシャ、韓国、中国にてオーケストラとの共演、室内楽、ソロの演活動を行う。通常のソロリサイタルにオリジナル曲を交え、観客から与えられるテーマをもとに即興演奏するという独自の演奏スタイルは、「Grosse Talent（大きな才能）」「Yukos schöne Welt（悠子の美しい世界）」「Meisterin der Tasten（鍵盤のマエストロ）」 等、ドイツ国内の新聞各社に取り上げられる。2015 年 6 月には、自作のトリオ「3 つの小品」が、ドイツリートベルクの修道院にて演奏された。伴奏者としての信頼も得ており、これまでにヨゼフ・キス（デトモルト音大オーボエ教授）、イ・チョルウォン（延世大学トロンボーン教授）、キム・ウォンスン（トランペット奏者）、工藤すみれ（ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団チェロ奏者）、村上淳一郎（ケルン WDR 交響楽団首席ビオラ奏者）ら様々な音楽家と共演を重ねている。2016 年 9 月、第 6 回 Sejong Dream Tree Korean Traditional Orchestra（韓国の伝統楽器によるオーケストラ） & Sejong Dream Tree Orchestra 合同コンサートにてオーケストラとピアノ一台用（オリジナルはピアノ 2 台）に編曲された「サンサーンスの動物の謝肉祭」を演奏。同年 11 月には、韓国の国立アジア文化殿堂より第 1 回 Anniversary Performing Arts-Festival in Gwangju に招待され若いピアニストたちへの指導、および韓国新進気鋭の作曲家キム・ウンヘ、ハン・デソブ、イ・ムンソク等の四手連弾作品を披露。2019 年「仲村渠悠子コンサートシリーズ Vol.1」をパレット市民劇場（沖縄）にて開催。同年 12 月、中国・長春にてリストピアノ協奏曲第一番を、吉林省東北師範大学オーケストラと共演。吉林省東北師範大学にて、即興演奏特別授業を行う。2021 年 2 月、夫チョウ・ジャンフン氏（指揮者、作曲家）と共に「仲村渠悠子オーケストラプロジェクト～音のスケッチ～」を企画。オーケストラとピアノ用に編曲された自作品を収録。自作品、即興演奏を収録した CD「Spring Garden」、「To My Children」、「Lulu」がある。2022 年 3 月、ショパン全曲演奏会 Vol.1「仲村渠悠子ピアノコンサート～ショパンとその愛弟子」開催（パレット市民劇場）。1992 年度 PTNA ピアノコンペティション全国大会 E 級 銅賞・全日空賞・ソニー賞受賞。第 5 回おきでんシュガーコンクール新人演奏会優秀賞。第 13 回彩の国埼玉ピアノコンクール一般の部第 1 位・県知事

賞受賞。第10回日本国際室内楽コンクール第4位。ギリシャレシムノン ザイラー国際ピアノコンクール ディプロマ賞受賞。ドイツデトモルト音楽大学非常勤講師（2009-2010）ドイツデトモルト音楽大学講師（2010-2015）日本バッハコンクール,ブルグミュラーコンクール,全日本ピアノコンクール審査員。2022年度(第57回)沖縄タイムス選賞奨励賞受賞。現在、沖縄県立芸術大学非常勤講師。一般社団法人日本音楽協会南日本支局副委員長。日本歌唱芸術協会理事。
仲村渠悠子公式ホームページ
https://yukonakandakari.com/

■ 豊田 喜代美 Kiyomi Toyoda ソプラノ

東京都出身。桐朋学園女子高等学校普通科卒業。桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。ドイツ・ケルン音楽舞踏大学マスタークラス留学。国立法人北陸先端科学技術大学院大学博士前期・後期課程修了。博士（知識科学）。博士論文:クラシック音楽歌唱における知識創造モデルースキルサイエンスからの接近）。教会音楽家ドイツ国家資格C取得（2019）。 萩谷納, 柴田睦陸, 柴田喜代子, E.ボゼニウスに声楽を、ケルン・ミラノ・ローマ・ウィーン各地にて、ボイスコーチのＪ．スターノ,S.バッディ,コレペティトアの F.フェッラーリス,S.ローチ,F.エーガーマン, H.フィールテル,W.フックスベルガーの許で研鑽。指揮者の小澤征爾, 若杉弘, 朝比奈隆, 渡邉暁雄, 秋山和慶, 尾高忠明, 高関健, 大野和士, 小林研一郎, 岩城宏之, 井上道義, 沼尻竜, 大友直人, 佐藤功太郎, 黒岩英臣, ホルスト・シュタイン, ロビン・オニール, ヘルベルト・ケーゲル, ズデニェク・コシュラー, ジェームズ・ロッホラン他の下、オペラ作品では主に東京二期会, 日生オペラ劇場, 東京オペラプロデュース, 他の各公演に出演し、《フィガロの結婚》ケルビーノ・スザンナ、《ドン・ジョバンニ》ツェリーナ、《イドメネオ/秋山和慶》イリア、《コジ・ファン・トゥッテ/飯守泰次郎・秋山和慶》デスピーナ・フィオルデリージ、《セヴィリアの理髪師》ロジーナ、《ペレアスとメリザンド/指揮：若杉弘・黒岩英臣》メリザンド、《こうもり/指揮：尾高忠明》ロザリンデ、《魔弾の射手/指揮：大友直人》アガーテ、《夕鶴/指揮：團伊玖磨》つう、《ヴォツェック/指揮：小澤征爾》マリー、《トスカ/指揮：高関健》、《蝶々夫人》、《ファルスタッフ/指揮：小澤征爾》ナンネッタ、《ホフマン物語/指揮：小澤征爾》ジュリエッタ・オリンピア・アントニア・ステッラ全４役、他、日本創作作品初演は間宮芳生作曲オペラ《夜長姫と耳男/夜長姫/水戸芸術館柿落し》夜長姫、池辺晋一郎作曲オラトリオ《呼び交わす山河/預源院/石川県立音楽堂柿落し》、モノオペラ一柳慧作曲《火の遺言》、NHKオペラ《平泉炎上》かえで、他、20作品以上の主役を歌っている。オーケストラ作品では、新日本フィル、日本フィル、東京都交響楽団、東京交響楽団、NHK交響楽団、新星日響、シティフィル、大阪フィル、大阪センチュリー響、関西フィル、札幌交響楽団、九州交響楽団、群馬交響楽団、オーケストラアンサンブル・金沢、名古屋フィル、北オランダ交響楽団、ニューヨーク・シラキュース交響楽団、他の定期演奏会に出演し、ベートーヴェン作曲《ミサ・ソレムニス》《交響曲第九番》、モーツァルト作曲《レクエイム》《モテット》他, J.S.バッハ作曲《マタイ受難曲》《ロ短調ミサ曲》他、ブルックナー作曲《ミサ曲》他、ヘンデル作曲《メサイア》他、ブラームス作曲《ドイツ・レクイエム》他、マーラー作曲《交響曲第二番》《交響曲第四番》《子供と角笛》》《交響曲第八番/SopII/ルチア. ポップ、ベルンハルト・ヴァイクルと共演》、ブーレーズ作曲《プリスロンプリ》日本初演, ウエッバー作曲《レクイエム》、他のソリストを演奏。ドイツ在日大使館主催リサイタル（ボン, ラ・レドゥートゥにて）, 米国在日大使館主催リサイタル（ワシントン D.C./コーコラン美術館ホールにて）, ニューヨーク・カーネギーホール(小), ドイツ・ケルン日本文化会館などで、J.S.バッハ作曲カンタータ、モーツァルト作曲モテット、日本歌曲を演奏。CDは『N響90周年記念シリーズ/若杉弘指揮/ヘンデル・メサイア（モーツァルト編）』『新日本フィル/朝比奈隆/ニーベルングの指輪全曲』他, 多くの演奏会ライヴ録音の他に、「木下牧子浪漫歌曲集」、「貴志康一日本歌曲」（オーケストラ版/都響都響定期演奏会ラ

イヴ)、「無伴奏による日本の唱歌」他。NHK ニューイヤーオペラコンサート、題名のない音楽会他のテレビ、NHK. FM 放送、百万人の音楽他のラジオ出演。
沖縄県立芸術大学教授 2010-2017。東京大学非常勤講師 2018.9-2022.3（芸術創造連携研究機構の授業『楽器としての身体 : 声楽の実践と科学/目的 : 個々人の身体能力活性化および歌唱による芸術創造体験』)を身体運動科学者・工藤和俊氏と共に担当し、"Arts-Based Method in Education Research in Japan"（Brill Publishers）の中の“Music-Based/Inspired Scientific Research and Liberal Arts Education”を工藤和俊氏と執筆した（2022 年 2 月出版)。歌唱芸術の及ぼす人への作用の研究は継続している。https://researchmap.jp/gratiamusic1_11_4
第 11 回ジローオペラ賞受賞（対象:セヴィラの理髪師/ロジーナ)。第 16 回サントリー音楽賞受賞（対象:オペラ・ホフマン物語/全 4 役, コジ・ファン・トゥッテ/デスピーナ, オラトリオ・天地創造/ソプラノソロ, 毎日ゾリステン主催リサイタル)
https://www.suntory.co.jp/sfa/music/prize/winner.html
ウィーン・ハプスブルク宮廷芸術家友好協会、東京二期会、日本演奏連盟、日本声楽発声学会、グレゴリオ聖歌学会、各会員。日本歌唱芸術協会代表理事。本年 2023 年 6 月に CD 収録を行った。曲目は(1)貴志康一作曲の日本歌曲（オーケストラ歌曲のピアノ版）「赤いかんざし、かもめ、行脚僧、かごかき、天の原」。ピアニストは渡辺健二氏。(2)木下牧子作曲の新作モノオペラ《暁の星》夏目漱石「夢十夜」より。ピアニストは仲村渠悠子氏。2024 年 3 月リリース予定。
豊田喜代美公式ホームページ
https://mulierfortisgratia.com/
[予定]オペラ Mulier fortis（勇敢な婦人・細川ガラシャ）コンチェルタンテ。11 月 17 日 19 時開演。旧東京音楽学校奏楽堂(重要文化財）。主催:オペラ Mulier fortis 公演実行委員会　後援:オーストリア在日大使館文化フォーラム,財団法人東京二期会,社団法人日本演奏連盟,日本歌唱芸術協会。協力:㈱プロコミュニケーション。
問合せ：070-8996-7469 (MAE Co., Ltd.)
チケットぴあ：P コード 248250

■ **金城 理沙子**　Risako Kinjo **ソプラノ**

沖縄県南風原町出身。沖縄県立開邦高校芸術科音楽コース在学中より声楽を学ぶ。沖縄県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。卒業時、西銘順治賞を受賞。同大学院音楽芸術研究科声楽専修修了。第 46 回新報音楽コンクール声楽部門一般の部第 1 位および特賞を受賞。第 71 回日本学生音楽コンクール大学の部北九州大会第 2 位。第 20・25・28 回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション入選。第 26 回コンセール・マロニエ 21 声楽部門入選。平成 26・27 年度公益財団法人青山財団奨学生。2019 年 12 月に行われた第 43 回全国育樹祭にて国歌独唱。2021 年新宿文化センター大ホールにて行われた日本オペラ協会主催《キジムナー時を翔ける》マチー役にてオペラデビュー。これまでに声楽を玻名城律子, 豊田喜代美, 市原多朗, 五郎部俊朗の各氏に師事。
沖縄県立芸術大学非常勤講師。日本歌唱芸術協会幹事。

■ **金城 真希**　Maki Kinjo　**ソプラノ**

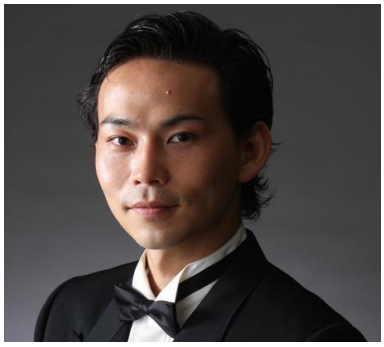
沖縄県出身。沖縄県立開邦高等学校芸術科音楽コース、沖縄県立芸術大学声楽専攻卒業。同大学大学院修士課程修了。2003 年、おきでんシュガーホール新人オ-ディション入選。2003 年沖縄県立芸術大学オペラ公演『コシ・ファン・トゥッテ』にデスピーナ役で出演。同年、出身地本部町にてリサイタルを開催。

2004～2005 年イタリアに渡り研鑽を積む。2006 年、名護市『第九』公演でソリストを務める。2007 年、名護市にてリサイタルを開催。同年、日本歌曲振興会(波の会)日本歌曲コンクール入選。2008 年、那覇市にてリサイタルを開催。2014 年、第 6 回東京国際声楽コンクール入選。2015 年、オペラ愛島主催オペラ『椿姫』にヴィオレッタ役で出演。日本歌唱芸術協会会員。2019 年まで沖縄県立芸術大学非常勤講師。
現在、アルテ音楽教室講師。

■ **仲本 博貴** Hirotaka Nakamoto **バリトン**

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学大学院声楽専修修了。ドイツ・国立ミュンヘン音楽・演劇大学大学院修了。これまでに,喜納健仁,ウーヴェ・ハイルマン,フリーダー・ラング,ローランド・ヘルマン,ニコラ・ロッシ・ジョルダーノに師事。
第 75 回,第 81 回,日本音楽コンクール声楽部門入選。第 5 回長久手オペラ声楽コンクール三位。琉球新報音楽コンクール一般の部一位。在独中、ミュンヘン・プリンツレゲンテン劇場、ニュルンベルク市立歌劇場にてグルック作曲のオペラ《メッカの巡礼》のヴェルティゴ役（指揮アレクサンダー・リープライヒ、演出ヴェラ・ネミローヴァ、ミュンヘン室内楽管弦楽団）等にオペラ出演した他、ドイツやスペインの教会やコンサートホールにて宗教曲のソリストを務めた。帰沖後は、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル松本（現セイジ・オザワ松本フェスティバル）主催公演において、《ヘンゼルとグレーテル/ペーター役》他、三枝成彰作曲《KAMIKAZE-神風》等に出演。地元沖縄にて開催された沖縄国際音楽祭「第九 in 沖縄」では、バリトンのソリストとして、世界的ソプラノ歌手エヴァ・メイ、ディミトラ・テオドッシュと共演するなど、これまでに国内外にて数々のオペラ、オラトリオ、コンサートに出演している。2021 年 9 月のリサイタルにて演奏したシューベルト作曲《白鳥の歌》（全曲/ピアノ：内海博子）が好評を博し、第 55 回・第 56 回沖縄タイムス芸術選奨奨励賞を受賞。また、演奏活動の傍ら、合唱団「いーすたん」、女声合唱団「シャイニー」、合唱団「海音」、各合唱団の指揮者を務めながら、宗教曲やオペラ等のオーケストラ付き作品の合唱指導者としても活動している。
沖縄県立芸術大学非常勤講師。日本声楽発声学会,日本歌唱芸術協会（代表理事）、各会員。
[予定]仲本博貴バリトンリサイタル。
10 月 28 日(土)17 時開演　パレット市民芸術劇場
ピアニスト:内海博子　後援:日本歌唱芸術協会

■ **西條 智之** Tomoyuki Saijyo **バリトン**



東京都生。埼玉県育ち。沖縄県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学大学院声楽専修修了。同大学助手を経て、イタリアのクラウディオ・モンテヴェルディ音楽院へ留学。平田栄寿,小池哲央,市原多朗,五郎部俊朗,Ennio Capece、Paolo Coni,Antonio Camponogara,Markus De Prosperis に師事。チェゼーナ・ボンチ歌劇場『リゴレット』タイトルロールを務める（パオロ・コニー監修,アルフォンソ・アントニオッツィ演出）。他に、『カルミナ・ブラーナ』バリトン・ソロ、『奥様女中』ウベルト役/ボルツァーノ市立劇場、『魔笛』パパゲーノ役/ヴェノーザ劇場、『ドン・ジョバンニ』レポレッロ役/ヴィラッツァーノ劇場、『アトランティスの皇帝』タイトルロール（プッチーニ歌劇場）などイタリア各地の劇場に出演。県内では沖縄県立芸術大学開学20周年記念オペラ公演『ファルスタッフ』フォード役、浦添市創出事業琉球オペラ『アオリヤエ』尚寧王役、沖縄県立芸術大学音楽学部創立30周年記念第25回オーケストラ定期演奏会L.V.ベートーヴェン《交響曲第9番ニ短調作品125》バリトン・ソロ（指揮・尾高忠明）などを務める。第16回おきでんシュガーホール新人演奏会優秀賞。第6回ルーマニア国際音楽コンクール声楽部門第3位(1位なし)及びオーディエンス賞ルーマニアラジオ文化局賞。第11回大阪国際音楽コンクール一般の部オペラコース第1位及び宇野収賞。第30回飯塚新人音楽コンクール入選。第14回さくらぴあ新人コンクール第1

位さくらぴあ大賞。第32回宝塚ベガ音楽コンクール入選。第3回“ジャンジャコモ・グエルフィ”国際声楽コンクール第1位。2013、2014年度宗次エンジェル基金／公益社団法人日本演奏連盟新進演奏家奨学生。
日本歌唱芸術協会理事（副代表・事務局長）。
現在、沖縄県立芸術大学非常勤講師。

■ **服部 洋一**　Yoichi Hattori　**テノール**

東京都出身。青山学院大学文学部英米文学科卒業後、東京芸術大学音楽学部声楽科を経て、同大学院修士・博士課程修了。東京芸大在学中スカウトされて渡独、バイロイト祝典歌劇場にてヴァーグナーの楽劇 5 作品に出演。博士課程在学中、スペイン政府より招聘を受けスペインに留学（1988～90）、帰国後もスペインの歌曲、オペラ（サルスエラ）を中心に演奏・研究を行う。平成 15 年 2 月 8 日、ハービー・ハンコック氏らが選考委員を務める＜平和のための芸術家委員会＞より「芸術人道創立者賞」を受賞。テノール歌手及び指揮者として沖縄・東京・福岡はもとより台湾、シンガポール、マレーシア等でコンサートに出演。東京音楽大学及び大学院教授, 琉球大学名誉教授, 東京藝術大学講師（スペイン歌曲, サルスエラ指導）二期会スペイン音楽研究会特別講師。琉大ミュージカル代表。RM コンソーシアム創立者。台湾 SGI 太平洋合唱団及び台湾鈴木協会 TSA）指導顧問。芸術学博士（音楽）。声楽を藤原章雄, 松山憲善, 畑中良輔, 瀬山詠子, 吉川具仁子, マリーア・レモラの各氏に、またスペイン声楽曲演奏法を F.ラビージャ,F.トゥリーナ,A.イゲーラスの各氏に、イタリア声楽曲・オペラ歌唱法を C.カメリーニの各氏に師事。V.デ・ロス・アンヘレス,M.カバリェ両氏のマスターコースを受講。T.ベルガンサ,J.ムニョス,F.ペレス,ウェイエン・シュー, マリーア・バーヨ各氏ら、来日スペイン人及び外国人声楽家・ピアニストらのマスター・クラスでのスペイン語, 英語通訳も務める。日本歌唱芸術協会理事。沖縄音楽療法研究会会員。日本スペインピアノ音楽学会顧問

■ **五郎部 俊朗**　Toshiro Gorobe **テノール**

北海道旭川市出身。北海道教育大学旭川校卒業。中学校の音楽教師生活を経た後、声楽家を志す。故五十嵐喜芳氏の勧めにより、1986 年渡伊。ミラノにて研鑽を積み、トーティ・ダル・モンテ（１位）、トゥールーズ（２位）、マリオ・デル・モナコ（３位）、ヴェルヴィエ（３位）、ベニアミーノ・ジーリ（３位）、チャイコフスキー（バッハ賞）など数々の国際声楽コンクールで入賞。イタリア・トレヴィーゾ市立歌劇場、スイス・ビール市立歌劇場などに出演した。1990 年帰国し、藤原歌劇団の「ドン・ジョヴァンニ」で日本デビュー。続く「チェネレントラ」「夢遊病の女」で成功を収め、第 19 回ジロー・オペラ賞「新人賞」を受賞。その後も「セビリアの理髪師」「愛の妙薬」「魔笛」「メリー・ウィドー」「こうもり」その他、数多くのオペラ・オペレッタに主演し好評を博す。また、藤原歌劇団のロッシーニ・シリーズ公演「イタリアのトルコ人」「アルジェのイタリア女」「チェネレントラ」「ランスへの旅」「どろぼうかささぎ」に連続して出演するなど、デビューから約 20 年間にわたり、藤原歌劇団の主役テノールを務めた。
オペラ以外では、J.S.バッハのカンタータ・受難曲の福音史家をはじめ、「第九」「メサイア」「レクイエム」「カルミナ・ブラーナ」などのソリストとして、オーケストラや合唱団へ数多く客演した。リサイタルでは、ドイツ歌曲・イタリア歌曲等を中心とした正統的なものから、トークを交えて日本の抒情歌・世界の愛唱歌を歌う、親しみ易いプログラムまで、幅広く行っている。テレビやラジオにも、NHK「日本うた絵巻」「みんなの童謡」「我が心の愛唱歌・大全集」「ラジオ深夜便」「名曲リサイタル」などに出演。録音では、「冬の旅」「舞踏への誘い」「日本のうた」「サンタ・ルチア」、「歌は美しかった」シリーズI～VIなど、合計 10 枚の CD をリリースしている。現在、沖縄県立芸術大学教授。藤原歌劇団団員。日本演奏連盟会員。日本声楽発声学会会員。

日本歌唱芸術協会名誉理事。

■ 根神 夢野　Yumeno Negami ソプラノ

沖縄県うるま市出身沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業、同大学研究科、大学院演奏芸術専攻声楽専修修了。姉妹校留学生としてドイツ国立ブレーメン芸術大学に留学。
留学中、ブレーメン芸術大学の室内合唱団の一員として、ブレーメン各地の教会やドイツ・ヘルゴランド島への演奏ツアーに参加。また、“LAUDATE,CANTATE”合唱団の一員として、J.S.バッハ《ロ短調ミサ》では憧れのドロテー・ミールズと共演するなど、宗教曲や合唱音楽の研鑽を積んだ。ハンガリーのブダペストにてクリスティーナ・ラキによるマスタークラスを受講。これまでに沖縄県立芸術大学洋楽定期公演《カルミナブラーナ》のソプラノソロ、琉球交響楽団 0 歳児からのコンサート、《メサイア》演奏会(抜粋)等に出演。合唱指導者としての活動では、アンサンブルコンテスト中学校部門全国大会 2 回出場。全日本合唱コンクール中学校混声部門、全国大会出場へと導く。その様子を沖縄テレビ放送ニュース番組「OTV LIVE　NEWS イット!」内の【ひらけ!未来 への扉】にて、沖縄から 27 年ぶりの全国大会出場が特集された。現在、演奏会活動する傍ら合唱指導にも情熱を注いでいる。演奏、合唱指導共に「人と人とが繋がる演奏」をキャッチフレーズに、活動を続けている。
日本歌唱芸術協会幹事。

■ 友利 あつ子　Atsuko Tomori ソプラノ

沖縄県出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業、同大学大学院修了。在学中、大学オペラ公演ヨゼフ・ツィルヒ指揮《フィガロの結婚》バルバリーナ役で出演。
第17回練馬文化センター新人オーディション優秀賞。練馬区新人オーディション受賞演奏会にて東京ニューシティ管弦楽団と共演（練馬区・練馬区文化振興協会主催）、練馬区役所アトリウムコンサート（練馬区主催）、郡司博指揮、「メサイア」（GMAグローバル・ミュージック・アソシエーション主催）、チャリティーコンサート（東京プロデュース主催）、友利あつ子ソプラノ・サロン・コンサート（NPOたけとよ・武豊町教育委員会主催、多治見市公共施設ネットワーク事業主催）、「新潟に花ひらく音楽家たち」（武蔵野音楽大学同窓会新潟県支部主催）、中央大学定期演奏会白石卓也指揮「ベートーベン作曲交響曲第九番」ソプラノソロ、「バッハ作曲ロ短調ミサ」ソプラノ1,「ハイドン作曲四季」ハンネ、（中央大学音楽研究会混声合唱団主催）、高山市民合唱団50周年記念演奏会白石卓也指揮「ベートーベン作曲交響曲第 9 番」ソプラノソロ（高山市民合唱団ひゆら）、「IlConcerto秋の夕べに」（Gruppo Nori主催）、「株式会社多良川創業７０周年記念コンサート」（株式会社多良川主催）、「琉球交響楽団父の日ファミリーコンサート」（琉球交響楽団主催）、「シュガーホールガラコンサート2019」（南城市主催）、「春の音楽会～音楽で彩る春のひととき～」（琉球交響楽団）。「金井喜久子沖縄に想いを馳せて」千葉・浦安、沖縄にて開催（ミュージックライフ主催）オペラの舞台に於いては、創作委託作品・世界初演若杉弘指揮一柳慧作曲《光》声役（新国立劇場主催）、小崎雅弘指揮ビゼー作曲《カルメン》フラスキータ役（千葉県・財団法人千葉県文化振興財団主催）、三澤洋史指揮《こどものためのオペラ劇場スペ

ース・トゥーランドット》（新国立劇場主催）、ドニゼッティ作曲《愛の妙薬》アディーナ役（陽奏会主催）、ラルフ・ヴァイケルト指揮シュトラウス作曲《サロメ》奴隷役（新国立劇場主催）、ペーター・シュナイダー指揮ワーグナー作曲《ローエングリン》小姓役（新国立劇場主催）、大勝秀也指揮中村透作曲《あちゃーあきぬ島》官女役（南城市文化のまちづくり事業実行委員会主催）、柴田真郁指揮ビゼー作曲《カルメン》フラスキータ役（沖縄オペラアカデミー主催）これまで声楽を平良勝, 平良公子、中西八寿子、オブラスツォワ、田中淑恵、平田典之、田手道子の各氏に師事。2017年、エヴァ・メイマスタークラス受講。東京二期会会員。日本歌唱芸術協会理事。開邦中学校・高等学校音楽非常勤講師。

■ **喜屋武 いつみ　Itsumi Kyan ソプラノ**

石川県出身。沖縄県立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了。 声楽を万行美幸氏,豊田喜代美氏に師事。同大学卒業時に卒業演奏会出演。同大学洋楽定期公演における W.A.モーツァルト作曲《フィガロの結婚》でスザンナ役として出演。琉球新報音楽コンクール入選。シュガー ホール新人オーディション入選。2017 年修士演奏は、ヘンデル作曲《メサイア》からソプラノの全アリア、および、J.S.バッハ作曲《結婚カンタータ》全曲。副論文研究は「G. F. ヘンデル《メサイア》のアフェクト表現について－ソプラノ・アリアを中心に—」。
沖縄声楽発声研究会研修演奏会「木下牧子公開レッスン」にて「涅槃」を演奏。2022 年日本歌唱芸術協会発足記念演奏会出演。2022 年日本歌唱芸術協会演奏研修会「池辺晋一郎作品演奏会出演。日本歌唱芸術協会会員。現在、沖縄県の高等学校に教諭として勤務している。